



就学前の

非認知能力 レンズで 「いいところ」 みつけ!!

WORK BOOK

主催 岡山県教育庁生涯学習課
協力 カンコーマナビネクト株式会社
監修 岡山大学 中山芳一

子どもたちの夢を育み、 その実現に向けて挑戦できる力を育てよう

「夢」=今はできないけれど、実現したいこと

岡山県の『夢育』が目指すもの

岡山県の教育では、「知育」「徳育」「体育」をバランスよく促進し、心豊かに、たくましく、未来を切り拓いていける人材を育成するため、これまで様々な学びを通じて、必要な資質や能力を養ってきました。

それに加えて、「夢」を持って、その実現に挑戦することで、「意欲」や「自信」などの『自分を高める力』を養う『夢育』に取り組んでいます。『自分を高める力』を養うことにより、「知育」「徳育」「体育」における子どもたちの学びをさらに促進することができるのです。

子どもたちが夢の実現に向かって挑戦していく経験を繰り返しながら、意欲や自信などの「自分を高める力」、自制心や忍耐力などの「自分と向き合う力」、協調性やコミュニケーション力などの「他者とつながる力」そして参画・貢献する態度などの「地域とつながる力」という4つの力を夢育では育てていきます。



自分を高める力



自分と向き合う力



他者とつながる力



地域とつながる力

CONTENTS

PART 1 非認知能力とはどんな力？【ガイダンス編】

- ★ 導入「夢育」について … P.1
- 1. 非認知能力とはどんな力？ … P.3
- 2. どうして非認知能力が重要な？ … P.6
- 3. 非認知能力の伸ばし方 … P.7

PART 2 『非認知能力レンズ』を持つとう【実践編】

- ★ “いいとこ（価値）”を意識づけするため
大人の関わり … P.9
- 1. 「非認知能力レンズ」を持って
いいとこ（価値）”を見つける … P.10
- 2. 「非認知能力レンズ」を持って聞いてみる … P.13
- 3. 意識づけのために伝える … P.13
- ★ ホームワーク … P.16

PART 3 非認知能力を伸ばす『仕掛け』とは？【応用編】

- 1. 子どもの変化を言語化してみよう … P.19
- 2. 非認知能力を伸ばす『仕掛け』とは？ … P.20
- 3. 『仕掛け』を考えよう … P.22
- ★ ワーク・ホームワーク … P.26
- ★ まとめ … P.27

PART 4 日常生活で活用しよう【振り返り編】

- 1. 実践したことを共有しよう … P.28
- 2. 日常生活でLet's Try！ … P.30
- ★ 非認知能力レンズmemo … P.31
- ★ 仕掛けmemo … P.34

Profile

記入日

年

月

日



★ お子さんの名前・年齢・名づけの由来

名前

年齢

名づけ
の由来

名前

年齢

名づけ
の由来

名前

年齢

名づけ
の由来

★ 最近のお子さんの様子は？（いいなと思った、困ったなと思ったエピソードなど）

「いいな」「うれしいな」

「困ったな」「大丈夫かな」

★ お子さんの興味があることはどんなこと？

★ どんな子に育ててほしい？



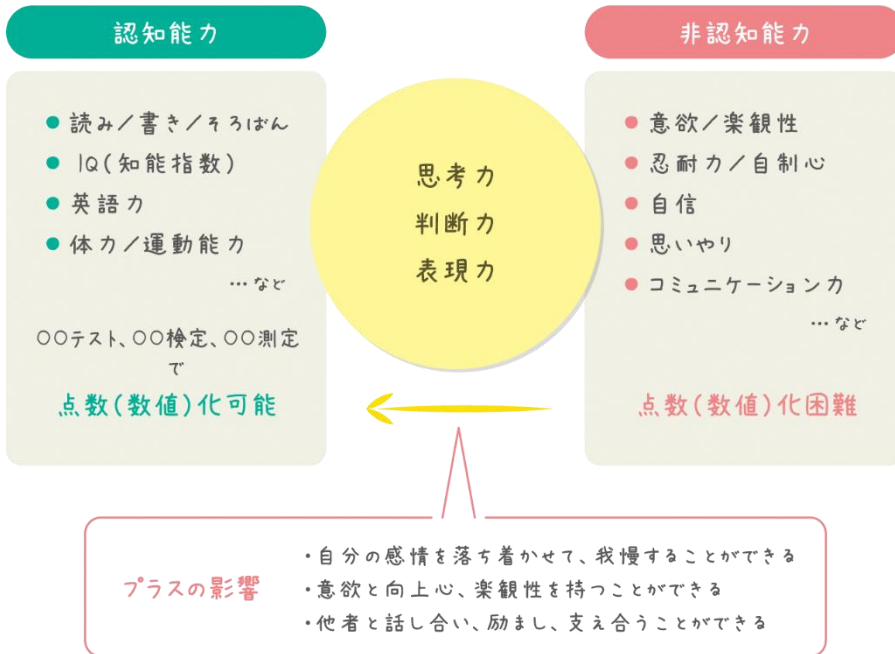
非認知能力
とは
どんな力？

【ガイダンス編】

1. 非認知能力とはどんな力？

非認知能力は

『点数化できない力』のこと！



しっかりと「支える基礎」を整えよう！

家に例えると、あるがままの自分を肯定できる
「自己肯定感」が土台で、家を支えるための
柱や筋交いが「非認知能力」です。

その支えるための基礎がしっかりとしていれば
その上に壁や天井・屋根・装飾といった
「認知能力」を、身につけやすくなります。



【壁・天井・窓・装飾】

→ **認知能力(知識・技能)**

数値化できる(認知的な)
知識や技能

【柱・筋交い】

→ **非認知能力**

数値化できない力
意欲、楽観性、忍耐力、自制心、自信
思いやり、コミュニケーションなど

【土台】

→ **自己肯定感(自己受容感)**

・自分という存在そのものを肯定
できていること

出典：『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』

中山芳一 東京書籍 2018

1. 非認知能力とはどんな力？

非認知能力は 大人になっても伸ばすことができる力

幼児期後半以降から伸ばすことができる「大切な考え方・自分に必要なこと・行動の習慣」は、成長する過程の中で大人になっても伸ばすことができる力です。

性格や気質を変えるのではなく、**状況に応じて必要な非認知能力を発揮**できるようになることが大切です。

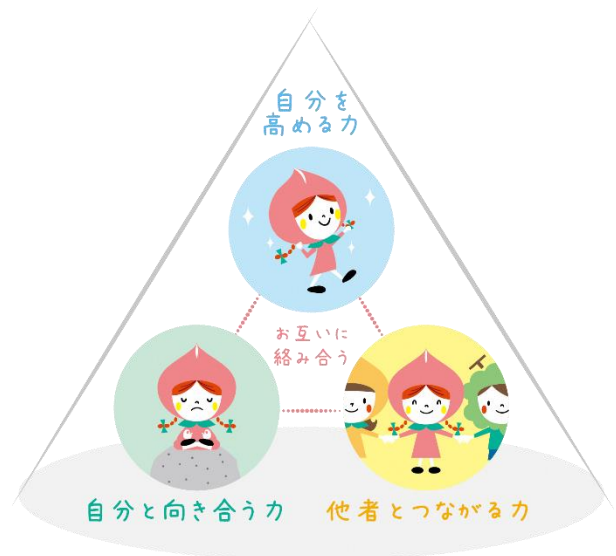


非認知能力は大きく 3つの力に分けられる

たくさんの「非認知能力」をこの研修では、大きく**3つの力に整理**しています。

また、3つの力はお互いに**絡み合いながら高めることができます。**

3つの力はやみくもにIPPんに高めようとするのではなく、高めたい力を決めて意識すると他の力と絡み合いながら伸びていくものです。



1. 非認知能力とはどんな力？

3つの非認知能力の特徴

非認知能力を伸ばすと、子どもの様々な姿・行動で現れます。

非認知能力の特徴を理解しておきましょう。

非認知能力	特 徴 (○...プラスの面 / ●...マイナスの面)
 <p>“自分を高める力”</p> <p>自分をさらにより良い状態にするために必要な力 やる気・意欲・向上心・挑戦心・楽観性 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新しいもの好きで、新しさに喜びを感じることができる。 ○難しいことがあっても、自分ならできると自分を信じていることができる。 ○いろいろなことに挑戦して、それを楽しむことができる。 ●新しいもの好きのため、1つのことが続けにくい。 ●計画的な取り組みが苦手。 ●楽しみがひとりよがりになり、周り合わなくなる。
 <p>“自分と向き合う力”</p> <p>自分の気持ちや状態を落ち着かせるために必要な力 ねばり強さ・我慢強さ・回復力 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○いつも表情や行動や態度に落ち着きと安定感がある。 ○計画通りにきちんと行い、規則正しく、我慢強く、注意深い。 ○辛いことがあっても気持ちを切り替えて、再び、取り組むことができる。 ●周りの人たちに自分の感情の変化が理解されにくい。 ●予定のない突然の出来事を臨機応変に対応することが苦手。 ●精神的なストレスを自分の中で抱えすぎてしまう。
 <p>“他者とつながる力”</p> <p>他者と協働するために必要な力 協調性・社交性・共感性・コミュニケーション力など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○他者とのいろいろなやりとりが上手にできる。 ○他者の気持ちや想いを理解し、その理由なども想像することができる。 ○人当たりが良く、たくさんの人たちと仲良くできる。 ●自分と相手と同じであることを押し付けてしまいやすい。 ●相手を思いやりすぎて、精神的に疲れやすい。 ●自分の意見をはっきり主張することが少ない。

2. どうして非認知能力が重要なのか？

非認知能力は 社会の変化に対応できる力

これまでの社会は、知識・技能といった「認知能力」が評価の基準となり、その知識や技能を身につければ社会で対応できると言われていました。

しかし、**これからは社会や生活が急速に変化し、予測ができない時代**と言われています。

その**社会変化に対応する力として「非認知能力」が注目**されています。



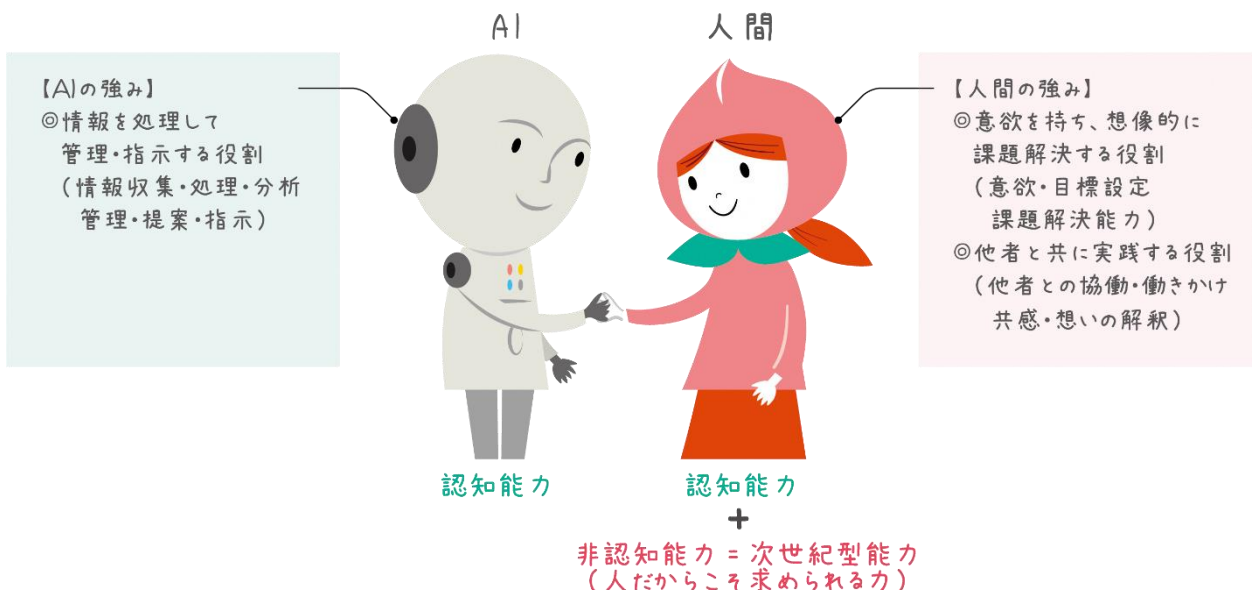
子どもたちの未来には、少子高齢化や環境問題のような様々な社会課題があります。

また、子どもたちは自分の身の回りに起こる変化や課題に対応していかななくてはなりません。

そのためにも、「**意欲・やる気**」「**ねばり強さ**」「**他者と協力**」といった「**非認知能力**」が必要です。

予測不可能な社会を生きていく子どもたちには、AIと人間がお互いの強みを生かし、

これからの社会をよりよく生きていくために、「非認知能力」を高めていくことが大切です。



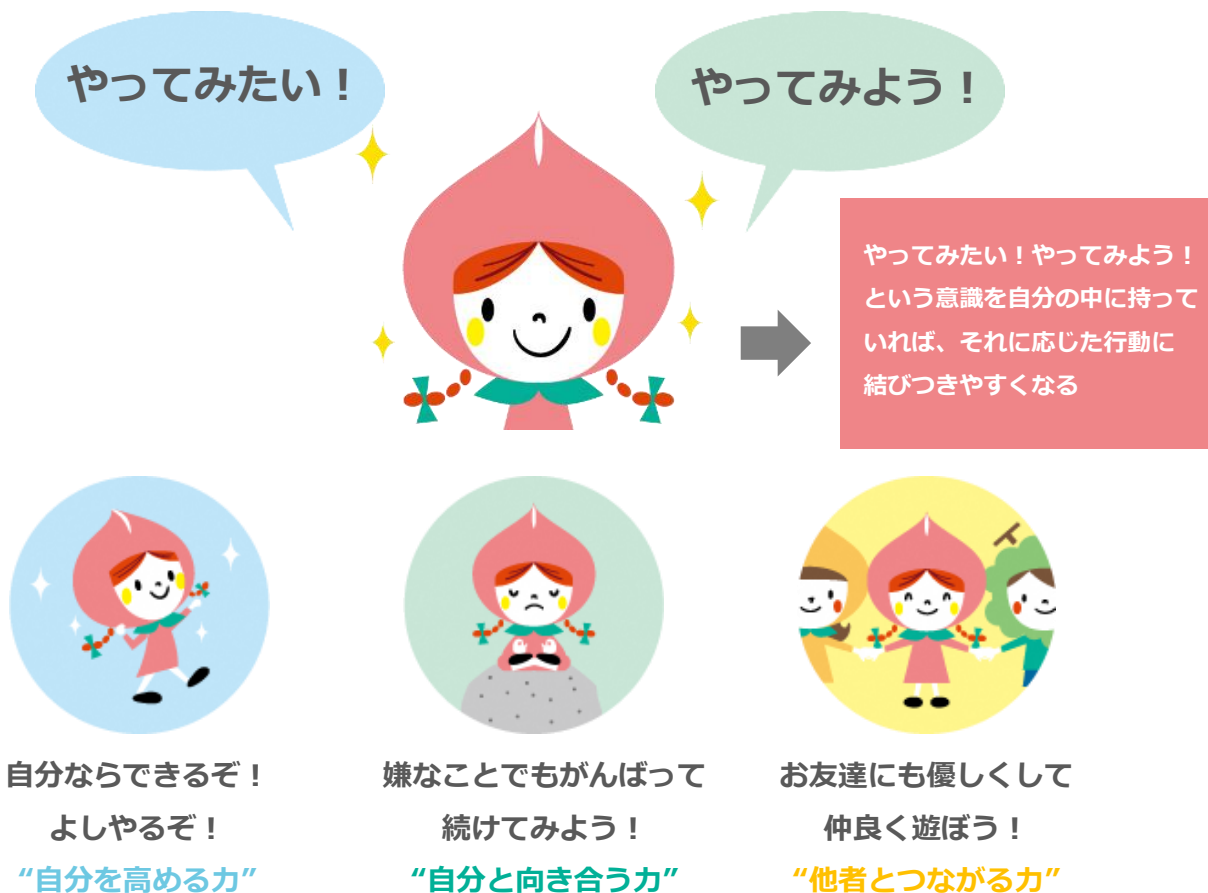
3. 非認知能力の伸ばし方

非認知能力は
“自分の意識”で伸ばせる力

非認知能力は外から与えようとするものではなく、

子ども自身が意識して行動することで伸ばすことができる力です。

自分で「やってみたい」、「やってみよう」と意識し、その状況に応じた言葉や行動は
何がベストなのかを、自分で意識できるようになれば、伸ばすことができます。



また、非認知能力を伸ばすために、認知能力のような特別なトレーニングは不要です。

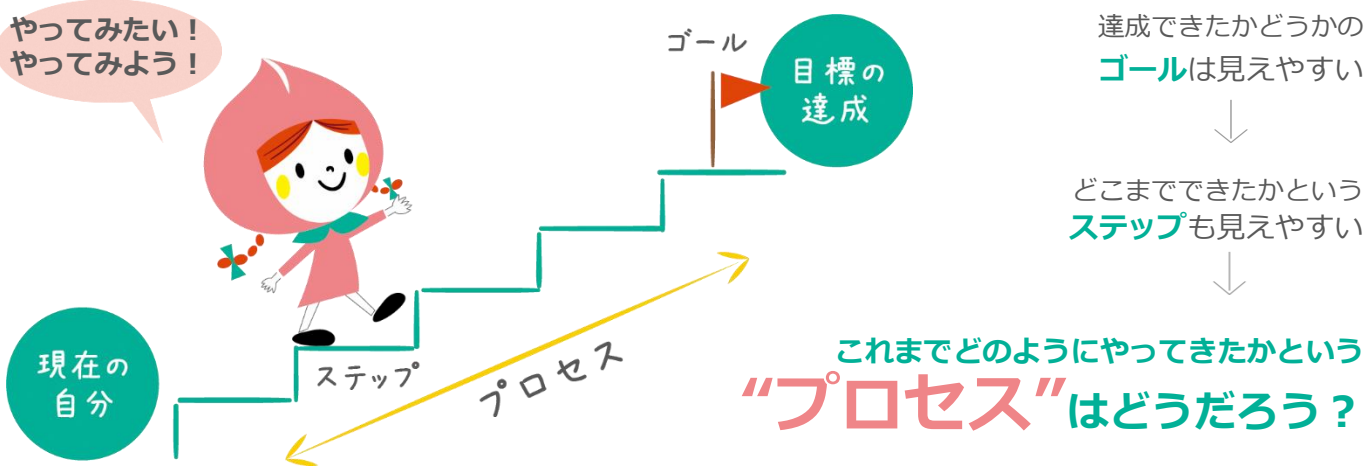
こうなりたい! というイメージを持ち、そのために「やってみたい!」「やってみよう!」と
いうことを意識して行動することが大切です。

3. 非認知能力の伸ばし方

“プロセス”の中で大人が 価値を見つけることが大切！

「プロセス」とはゴールに向けて
ステップも含めた課程・行程のこと

ゴール・ステップはできたか、できなかったかという限られた見方しかできませんが、
プロセスはいろいろな見方ができます。**様々な活動の中のプロセス（子どもの姿・行動）から
大人がいろいろな視点で価値（いいところ）を見つけて、子どもたちに価値（いいところ）を伝えることで
意識できるようにしましょう。**

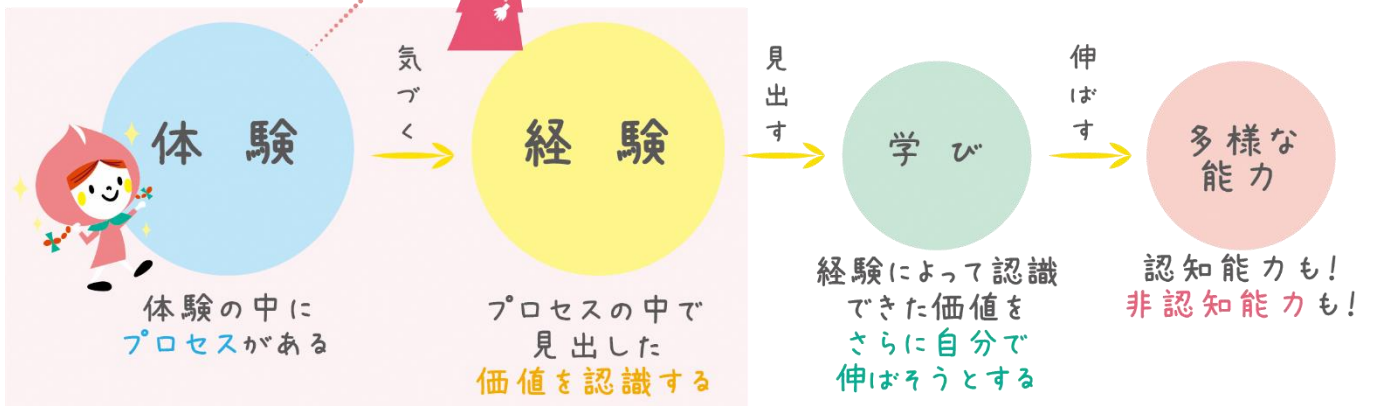


ただの体験に終わらせず

いろいろな能力を伸ばすための関わり！

「プロセス」から
いろいろな価値を
見つけよう！

大人は、子どもたちの体験の中のプロセス（姿・行動）から
価値を見つけて、子どもたちが自分の行動を価値（いいところ）
として意識できるような関わりをすることで、子どもたちの
体験は経験・学びとなり、いろいろな能力を伸ばしやすくな
ります。



「体験」活動など、その子がやったこと
「経験」活動を通してその子が気づいたこと

“いいところ（価値）”を 意識づけするための大人の関わり

子どもたちに“いいところ（価値）”を 意識づけするための大人の関わり

就学前の子どもは、自分の姿・行動を振り返り、自分自身で価値があると意識することは難しいので、**大人が子どものプロセス（姿・行動）から価値を見つけて、伝え共有することで、**子どもが自分自身の行動を価値（いいところ）として意識できるようになります。

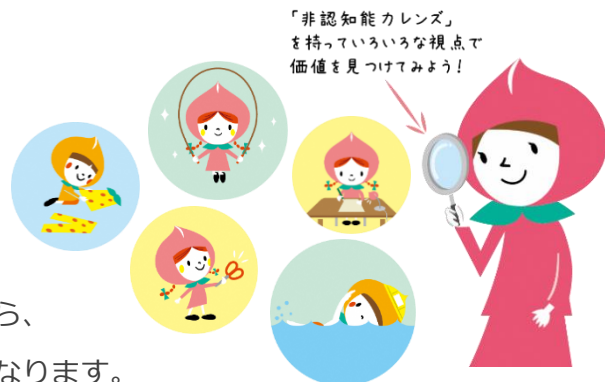
大人の関わりポイント

1. 「非認知能力レンズ」を持ってプロセスから
“いいところ（価値）”を見つける
 - ① できていることに目を向ける
 - ② ポジティブな見方に変えてみる
2. 子どもの気持ちや想いを聞いてみる
3. 意識づけのために伝える

プロセスから“いいところ（価値）”を 見つける視点を持つための「非認知能力レンズ」

プロセス（子どもの姿・行動）から
いいところ（価値）を見つめる視点を持つことを
「非認知能力レンズ」を持つと言います。

「非認知能力レンズ」を持つことで、
普段、見逃していたプロセス（子どもの姿・行動）から、
「いいところ（価値）」を見つめることができるようになります。



1. 「非認知能力レンズ」を持って
“いいとこ（価値）”を見つける
①できていることに目を向ける

できるようになったプロセスに注目！

非認知能力レンズを持つこともすぐには難しいですね？

そんなときは、「いつの間にかできていて当たり前だと思っている子どもの言動」を

「ありがたい（有り難し）＝めったにない」に変えてみましょう。

そうすることで子どもたちのできていることに目が向き、

そのプロセス（子どもの姿・行動）の中から「いいとこ（価値）」を見つけやすくなります。



work
1

「非認知能力レンズ」を持ってみよう！①

「いつの間にかできるようになっているな」というお子さんの言動を
思い浮かべてみましょう。

以前の姿

「いつの間にかできるようになっているな」というお子さんの言動

どんなプロセス（子どもの姿・行動）が見えて、どんな「いいとこ（価値）」が見えましたか。

PART 2

非認知能力
レンズ
を持とう

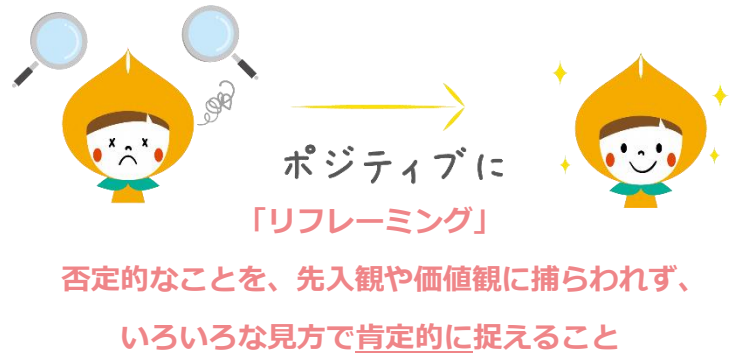
【実践編】

1. 「非認知能力レンズ」を持って
“いいところ（価値）”を見つける
②ポジティブな見方に変えてみる

ポジティブな見方に変えてみよう！

「困ったな」「大丈夫かな」とネガティブに捉えがちな
プロセス（子どもの姿・行動）も、**ポジティブな見方に変えると、**
その子のいいところ、長所や得意なことに変換できることがあります。

このことを「リフレーミング」と言います。



リフレーミングを活用すると、プラスの声掛けができるようになります。そうすることで、心にゆとりも生まれます。ぜひ普段の子どものプロセス（姿・行動）を見る視点としてリフレーミングを活用してみましょう！

Work
2

「非認知能力レンズ」を持ってみよう！②

最近のお子さんの「困ったな」「大丈夫かな」と思うことを書き出し、
ポジティブに捉えなおすと、どのようになるかを考えてみましょう。



「困ったな」「大丈夫かな」と思ったこと

Blank box for writing negative observations.



Blank box for writing positive observations after reframing.

1. 「非認知能力レンズ」を持って
“いいとこ（価値）”を見つける
②ポジティブな見方に変えてみる

リフレーミング事例



ポジティブに



【困ったな・大丈夫かな】

【いいところ・得意なこと】

集中力がない	➔	様々なことに興味がある
臆病	➔	慎重に物事を進められる
わがまま	➔	自分の意見が伝えられる
我慢できない	➔	自分の気持ちに素直になれる
飽きっぽい	➔	好奇心が旺盛
ずるがしこい	➔	知性がある・賢い・先が見通せる
気分屋	➔	物事にこだわらない
うそつき	➔	相手の気持ちを想像できる
計画性がない	➔	行動力がある・応用力がある
けんかっばやい	➔	情熱的である・失敗を恐れない
マイペース	➔	自分の世界を持っている・信念がある
だらしない	➔	おおらか・楽観性がある
周りが見えない	➔	一つのこと集中できる

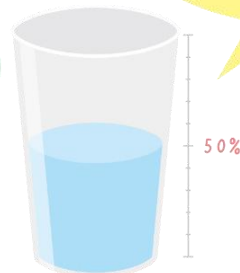
リフレーミングによってポジティブな見方をする事で
子どもたちの可能性を広げていくことができます。

コップに半分しか
水が入っていない...

【例】集中力がないな...

コップに半分も
水が入っている！

【例】なんて好奇心旺盛なの！



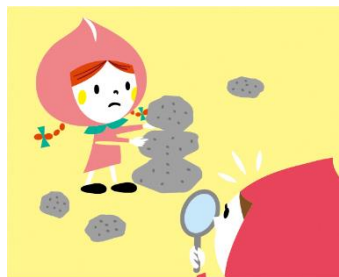
2. 「非認知能力レンズ」を持って聞いてみる

子どもの気持ちや想いを聞いてみよう！

プロセス（子どもの姿・行動）を見るだけでは
「いいところ（価値）」を見つけられない場合もあります。

その時は、「何をやっているの？」「なんでやっているの？」と問いかけてみましょう！

今やっていることや、しようとしていることへの理由や想いを聞くことで
そのコミュニケーションの中からプロセスを見つけ、価値とすることができます。



何をやってるの？ → 状態
なんでやっているの？ → きっかけ・動機
どうだった？ → 気持ち・考え

3. 意識づけのために伝える

非認知能力を意識づけるために
価値を伝えよう！

非認知能力は子ども自身が「伸ばしたい」「伸ばそう」と意識すれば行動が変わり、非認知能力を伸ばすことができます。そのため、「非認知能力レンズ」で見つけた価値をすぐに子どもに伝えて意識づけをしましょう。（価値を共有しましょう）



レンズを使って
プロセスの中から価値を見つける



すぐに伝えて価値を共有することで
価値として意識づけができる



3. 意識づけのために伝える

Work

3

「非認知能力レンズ」を持って伝えてみよう！

子どもとの会話の中から「いいとこ（価値）」を見つけて、意識づけしてみましょう！



【場面】子どもが折り紙を折っている

子どもが折り紙を折っている理由

理由1：保育園で教えてもらって、もっと上手に折れるようになりたいくて練習してるの！

理由2：おばあちゃんの誕生日までに100個作るんだ！今日は10個作るよ！

理由3：明日、友達の〇〇ちゃんにあげようと思って！

① 上記の理由1～3を選び、その理由から「いいとこ（価値）」を見つけてみましょう。

選んだ理由（ ） / 見つけた「いいとこ（価値）」

② ①で書いた「いいとこ（価値）」は、どのような声掛けで意識づけしますか？

③ 保護者役・子ども役を決めて会話をしてみましょう

●保護者役「どうして折り紙を折っているの？」

○子ども役「〇〇（理由1～3）だからやっているんだよ」

●保護者役「

」（②で書いたことを伝えてみる）

④ワークをやってみてどうでしたか？（感想・気づきなど）

3. 意識づけのために伝える

非認知能力レンズを持つと
信頼関係も深まる！

価値を伝え、子どもに意識づけする際に、大人はその子どもにとって、
価値を共有したい「信頼できる相手」であることが大切です。
「非認知能力レンズを持って、磨くこと」でポジティブな声掛けに変わり、
子どもとの信頼関係も深まります。



押し付けないように
しましょう

「非認知能力レンズ」
で信頼できる相手へ！

1. プロセス（子どもの姿・行動）を重視する
2. 言うことに一貫性がある（ブレない）
3. 子どもに共感する

memo

生活の中で「非認知能力レンズ」を持ってプロセス（子どもの姿・行動）の中から、「いいところ（価値）」を見つけ、意識づけしてみましよう

さっそく、家庭で実践してみましよう！

「非認知能力レンズ」を活用して、プロセス（子どもの姿・行動）から価値を探してみましよう。その見つけた「いいところ（価値）」は、どのように意識づけ（声掛け）したのか、また3つの非認知能力のどの力につながるのかを書いておましよう。

非認知能力レンズを持ち、プロセスの中から

“いいところ（価値）”を見つけ、子どもに意識づけするためのポイント

- 「非認知能力レンズ」を持ってプロセスから“いいところ（価値）”を見つける
 - できていることに目を向ける
 - ポジティブな見方に変えてみる
- 子どもの気持ちや想いを聞いてみる
- 意識づけのために伝える

非認知能力レンズmemo

いつ？だれが？	プロセス（子どもの姿・行動）からの“いいところ（価値）”	非認知能力
例1 7月7日 長女の〇〇	夕食のとき、麦茶がほしくなって自分のだけではなく、家族みんなにも、『いる？』と聞いてから準備をしてくれた。 意識づけ 「自分だけじゃなくて、みんなのことも考えてくれたんだね！ありがとう！」と伝えた。	<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input checked="" type="checkbox"/> 他者につながる力
例2 9月2日 次男の〇〇	家の中を走り回っていたので、「どうして走るの」と聞くと「運動会前だし、先生がしっかり走って練習しようって言ってたから！」と走るのをやめて、教えてくれた。 意識づけ 「先生の話をよく聞いていて、やる気になっているのは、いいことね。でも家の中で走ると危ないから別のいい場所を探そうね」と伝えた。	<input checked="" type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者につながる力
例3 10月5日 長男の〇〇	庭で石を積み上げているので、「なにやっているの？」と聞くと「今日、幼稚園で5個積めたからもっとたくさん積んでみたいと思って！」と教えてくれた。 意識づけ 「そんなに積めたの？すごいね！もっと積んでみたいって、チャレンジしているんだね」と伝えた。	<input checked="" type="checkbox"/> 自分を高める力 <input checked="" type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者につながる力

非認知能力レンズmemo

いつ? だれが?	プロセス (子どもの姿・行動) からの“いいところ (価値)”	非認知能力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力

非認知能力レンズmemo

いつ? だれが?	プロセス (子どもの姿・行動) からの“いいとこ (価値)”	非認知能力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者につながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者につながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者につながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者につながる力

「非認知能力レンズ」を持つことを実践してみて、どうでしたか？ 感想や気づきを書いておきましょう。

1. 子どもの変化を言語化してみよう

Work
4

ホームワークを振り返ってみましょう。



Q.1 非認知能力レンズを使ってプロセスから「いいところ（価値）」を探してみてください。（感想や気づき）

Q.2 見つけた「いいところ（価値）」をお子さんに伝えることで、お子さんに何か変化はありましたか？

Q.3 自分自身の変化はありましたか？

2. 非認知能力を伸ばす『仕掛け』とは？

非認知能力を伸ばす「仕掛け」とは？

子どもたちが自分から非認知能力を伸ばすために、大人である私たちがもっとできることは、
きっかけとなる「体験」を作り出すことです。

大人が意図的に「体験」を作り、
子どもたちが「やってみたい」「やってみよう」という気持ちが持てるように
働きかけていくことを「仕掛け」といいます。



非認知能力を伸ばす「仕掛け」は、大人が子どもに直接的に働きかけて、
何かを教える、身に付けさせるのではなく、**子どもたちの成長や発達につながる体験を
意図的につくり**、その中で子どもたちが自ら非認知能力を身に付けていけるように
間接的に働きかけることです。そうすることで、「仕掛け」は
子どもたちの体験の中に豊かなプロセス（姿・行動）を作り出すことができるのです。

2. 非認知能力を伸ばす『仕掛け』とは？

「仕掛け」の前に

引き出したい姿・行動を考える

大切なことは、「仕掛け」によって「どんな姿・行動」を引き出したいかを明確にすることです。見えにくい非認知能力だからこそ、引き出したい「姿・行動」を見えやすく明確にしておきましょう。

引き出したい姿・行動 = 「できるようになってほしいこと」や「続けてほしいこと」



子どもの「やってみたい」「やってみようかな」を尊重し
興味・関心を持って自発的な「参加」を促せるような「仕掛け」を！

「仕掛け」のポイント

1. 引き出したい姿・行動や、どんな力を伸ばしたいのかを明確にしておこう！
2. 普段やっていることの工夫で「仕掛け」を考えてみよう！
※「仕掛け」は1つではない。どんなことが「仕掛け」になるか、探してみることにしよう！
3. 「仕掛け」が成功するかどうかは子ども次第。子どもの意思を尊重しよう！

3. 『仕掛け』を考えよう

どんなことが「仕掛け」になるか探してみよう

皆さんが普段の生活の中でやっていることを工夫して「仕掛け」に変えてみましょう！
どのようなことが「仕掛け」になるか考えてみましょう。

仕掛け

『モノ』の工夫

モノを準備する
モノとモノを組み合わせる



『場所』の工夫

部屋のレイアウト・定位置を決める
環境を変える
※ルールor自由 ※季節感



自分を高める力



自分と向き合う力 他者とつながる力



子どもが目標を決める・競争する
ものまね・なりきりごっこ
※子どもが自分で考える・決める

あこがれ・ライバル・役割（立場）
※やっているところを見る
※あえて反論や失敗・過剰にほめる
※安心・安全な人間関係

『やること』の工夫

『人』の工夫

3. 『仕掛け』を考えよう

自分を高める力

自分をさらにより良い状態にするために必要な力

☆「仕掛け」のポイント☆

ちょっとした競争ゲームなどは、目標設定もしやすいため、やる気も引き出しやすい仕掛けになるでしょう。もちろん、お子さんが自発的にやっている場合には、自ら意欲を持っているときなので、見守ったり、より意欲が高まるように盛り上げてください！

仕掛け

『モノ』の工夫

- ・ご褒美シール
(ピアノが弾けるようになったらシールを渡しシールが10個集まったら、お菓子などのご褒美をあげる)
- ・子どもが好きなキャラクターの物
(文具・パジャマなど)
- ・子ども専用のマイ○○
(マイデスク・マイ包丁など)

『場所』の工夫

- ・リビングの活用
(練習がしやすいように、ピアノをリビングに置く)
- ・興味を示すように見える位置に置く
(地球儀や図鑑・本をリビングに置く)
- ・定位置が分かるようにする
(片付ける場所が分かるようにシールなどのワクワクするものを貼る)
- ・本物に触れる
(海・山・動物園・水族館博物館などに行く)



【自分を高める力】

やる気・意欲・向上心
挑戦心・楽観性 など

- ・目標を設定する
子どもが自分で設定できるように案を提示したり、一緒に考える
(昨日より少し高い目標やゲーム感覚でできること)
- ・ものまねをする
(スイミングでイルカのまね、幼児向け番組で見たものやキャラクターやあこがれの人のまね)
- ・がんばったことの振り返り
(寝る前・お風呂などで今日の出来事を話す)

- ・あこがれの人と一緒に行く
(お兄ちゃんと一緒に縄跳びをやる)

- ・見本を見る
(キャラクターアニメの着替え姿を見せる、頑張っている人の姿を見せる)
- ・○○係やリーダーに任命する
- ・誰かに教える場面づくり
(きょうだいに教える・友達に教える)
- ・周りの大人があえてできないふりをする

『やること』の工夫

『人』の工夫

3. 『仕掛け』を考えよう

自分と向き合う力

自分の気持ちや状態を落ち着かせるために必要な力

☆「仕掛け」のポイント☆

幼児期は、物を人のようにたとえてみるファンタジーに親しみを覚えます。
我慢や気持ちの切り替えなどにも有効な仕掛けになるでしょう。
ほかにも家族のルールやきまりを一緒に作っていくなどもおススメです！

仕掛け

『モノ』の工夫

- ・ 順番表、当番表をつくる
(お風呂に入る順番・掃除当番など)
- ・ 新しい〇〇を買ってくる
(歯ブラシ・文房具など)
- ・ 好きなキャラクターの物
(キャラクターの形の泡が出てくる
ハンドソープ)
- ・ あえて足りないものを作る
(どうするかを考える)
- ・ 人形やぬいぐるみ
(おしゃべりして勇気づける)
- ・ 計画を立てる
(今日することを自分で決め、
それ通りにできるか)
- ・ 苦手なことをゲームにする
(苦手なことやめんどくさいことでもゲーム
感覚で楽しくできる)
- ・ 順番を決める、待つ
(絵本の読み聞かせの順番、遊具・おもちゃ
など、あえて順番待ちをする遊びをする)
- ・ ルールを守る
(片付けのルール、生活のルールなど)

『場所』の工夫

- ・ 〇〇専用をつくる
(靴をきちんと整理しておくことができる
ようにその子専用の下駄箱を作る)
- ・ 静かな場所に行く (図書館・映画館など)
- ・ 集中させる環境を作る
(TVやメディアを消す)
- ・ 活動を促す曲や音を流す
(着替え、歯磨きなど生活
リズムや時間、ルールを
知らせるものなど)



【自分と向き合う力】
ねばり強さ・我慢強さ
回復力 など

- ・ 誰かと一緒に行く
(お母さんと一緒に折り紙を
折ってみる)
- ・ きょうだいや友達と一緒に遊ぶ

- ・ 見本を見る
(キャラクターアニメの着替え姿を見せる、
頑張っている人の姿を見せる)
- ・ 他者に「いいところ」を伝える
(きょうだいやお父さん、先生などに
ほめてもらう)

『やること』の工夫

『人』の工夫

3. 『仕掛け』を考えよう

他者とつながる力

他者と協働するために必要な力

☆「仕掛け」のポイント☆

親子や家族の間で、想像力を働かせてみたり、誰かの役に立ってみたり、実際にいろいろなコミュニケーションを試してみたりすることで、他者とつながることに楽しさや自信が持てるようになるでしょう。

仕掛け

『モノ』の工夫

- ・使うものを人数より少なく準備する
(文房具・とり箸・ゲーム機など)
- ・絵本を準備する
(物語など、登場人物の気持ちを考える)
- ・子どもが使うものを扱いやすいサイズにする
(キッチングッズ・じょうろ
・掃除道具など)

『場所』の工夫

- ・人と触れ合う場所やイベントに行く
(リビング・公園・公民館など)
- ・誰かと一緒に過ごす時間を増やす
(ごはんは一緒に食べる、休日は家族で
出かける)
- ・公民館や子育て広場等のイベントに参加する



【他者とつながる力】

協調性・社交性・共感性

コミュニケーション力 など

- ・友達の家に遊びに行く

- ・家族会議を開く
- ・できる役割（箸を配る、郵便をとる、ペットのお世話）
- ・ゲームにする
(「伝言ゲームね。○○ちゃんに～を伝えてきてね!」とゲームを通してコミュニケーションをとる)
- ・なりきりごっこあそび
(絵本に出てくる○○になりきる)
- ・手紙を書く、TV電話をする

- ・きょうだいや友達と一緒にする
(お姉ちゃんと一緒にお菓子を
家族分、分けて準備する)

- ・友達をおうちに招く

- ・おじいちゃん、おばあちゃんに会う

- ・役割を与える
(お手伝い、きょうだいや下の子に教える
○○リーダーなど)

『やること』の工夫

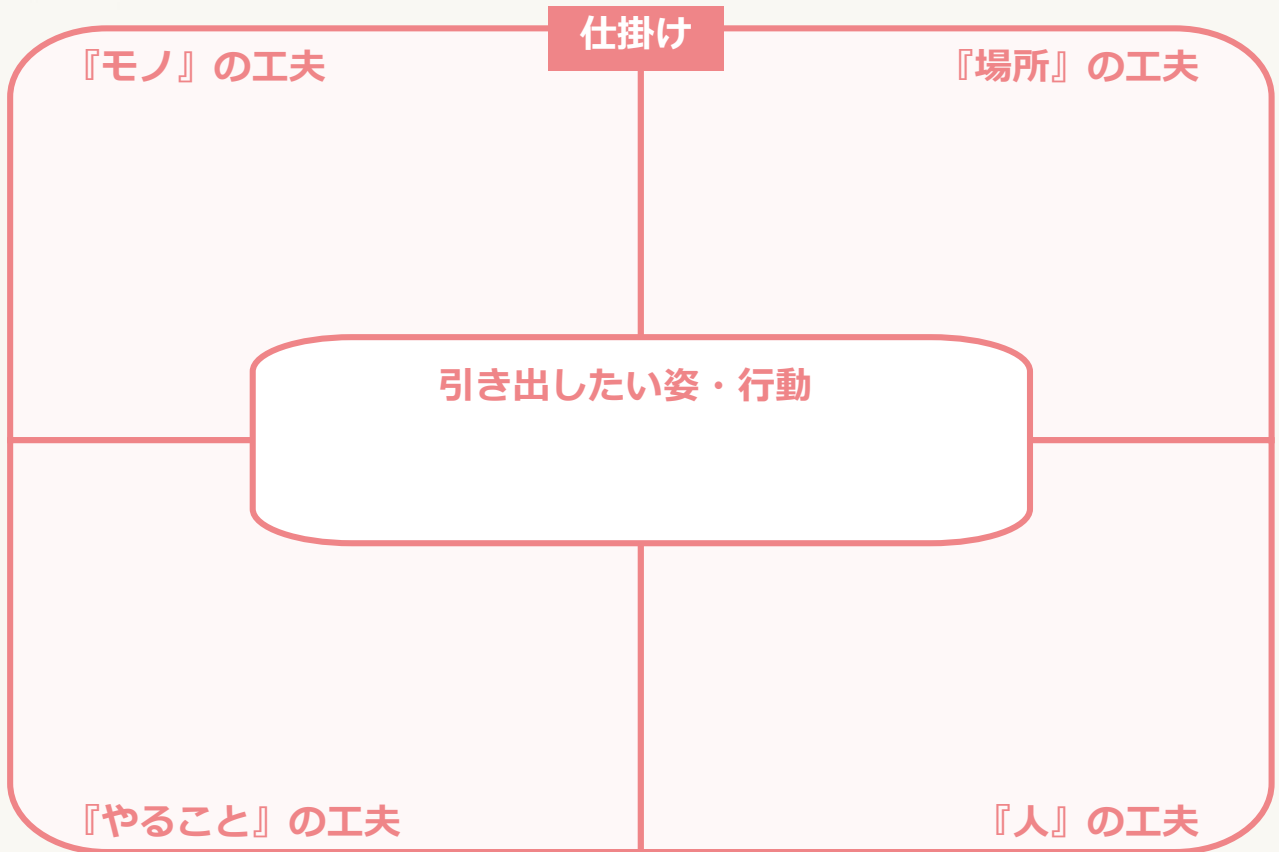
『人』の工夫

3. 『仕掛け』を考えよう

Work 5

引き出したい姿・行動から「仕掛け」を 考えてみましょう！

- ①最近のお子さんの行動で「困ったな」「大丈夫かな」と思うことから、引き出したい姿・行動を考えてみましょう。
- ②また、その姿・行動を引き出すための「仕掛け」を考えてみましょう。



Home work

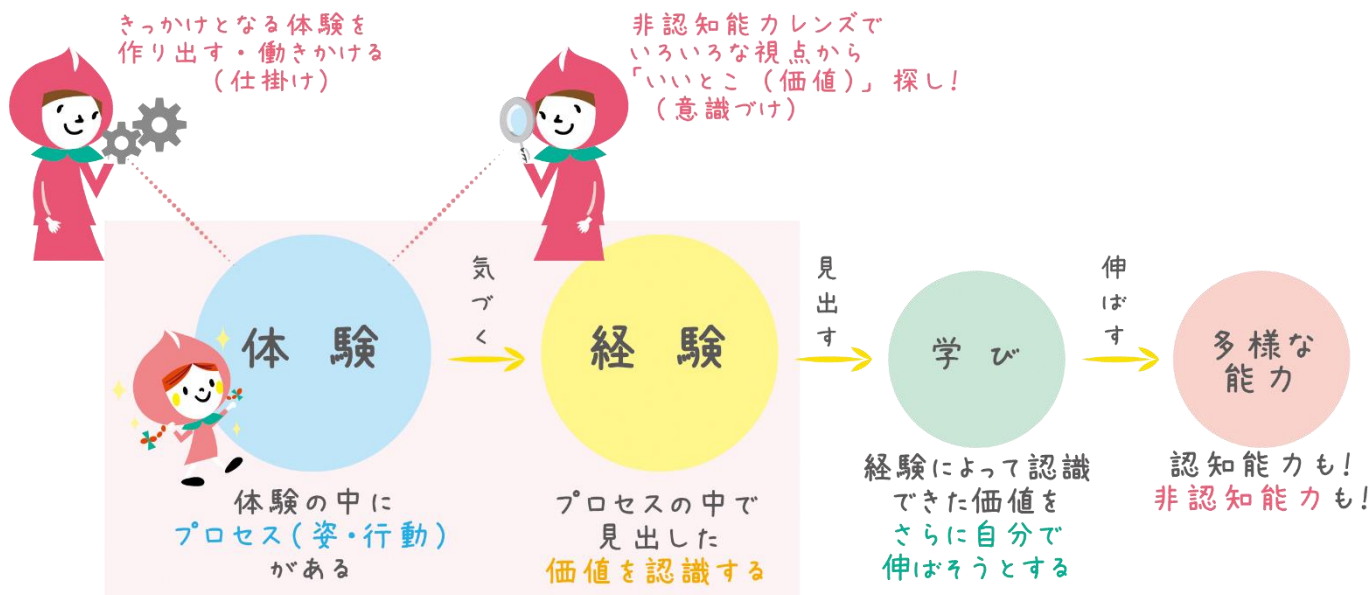
「仕掛け」を実践してみよう！

Let's Try! さっそく家庭で実践してみましょう。Work5で考えた「仕掛け」を実践してみましょう。その際の気づきや感想、お子さんの変化などを書いておきましょう。

大切にしたいポイント

非認知能力を育むために大切なポイントを整理！

1. 「非認知能力レンズ」を持ってプロセスから
“いいところ（価値）”を見つけよう
①できていることに目を向ける ②ポジティブな見方に変えてみる
2. 子どもの気持ちや想いを聞いてみよう
3. 意識づけのために伝えよう
4. 引き出したい姿・行動を明確にしよう
5. 意図的にきっかけとなる「体験」を作り出そう（＝「仕掛け」）
6. 子どもの意思を尊重しよう（押しつけは×）



私たち大人は子どもたちにとって重要な環境の一部です。
大人の関わりが子どもたちの非認知能力を育みます。

Let's Try!

1. 実践したことを共有しよう

work
6

「非認知能力レンズ」や「仕掛け」の 実践はどうでしたか？

楽しくできたこと・工夫したことなど

難しかったこと・相談したいことなど

お子さんや自分自身に変化はありましたか？

1. 実践したことを共有しよう

お互いの実践の感想から、参考になることや気づきを書いておきましょう。

2. 日常生活でLet's Try

Work
7

1年生になるまでに、こうなってほしいという
引き出したい姿・行動から「仕掛け」を考えてみよう

- ①お子さんが小学校1年生になるまでに「こうなってほしいな」と思うことから、引き出したい姿・行動を考えてみましょう。
- ②また、その姿・行動を引き出すための「仕掛け」を考えてみましょう。

『モノ』の工夫	仕掛け	『場所』の工夫
引き出したい姿・行動		
『やること』の工夫		『人』の工夫

非認知能力レンズmemo

いつ?だれが?	プロセス(子どもの姿・行動)からの“いいところ(価値)”	非認知能力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力

非認知能力レンズmemo

いつ？だれが？	プロセス（子どもの姿・行動）からの“いいところ（価値）”	非認知能力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力

非認知能力レンズmemo

いつ? だれが?	プロセス (子どもの姿・行動) からの“いいところ (価値)”	非認知能力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力
<p>月 日</p> <hr/> <p>意識づけ</p>		<input type="checkbox"/> 自分を高める力 <input type="checkbox"/> 自分と向き合う力 <input type="checkbox"/> 他者とつながる力

仕掛け memo

- ①最近のお子さんの行動で「困ったな」「大丈夫かな」「こうなってほしいな」と思うことなどから、引き出したい姿・行動を考えてみましょう。
- ②また、その姿・行動を引き出すための「仕掛け」を考えてみましょう。

	仕掛け	
『モノ』の工夫		『場所』の工夫
引き出したい姿・行動		
『やること』の工夫		『人』の工夫

考えた「仕掛け」を実践してみましょう。その際の気づきや感想、お子さんの変化などを書いておきましょう。

	仕掛け	
『モノ』の工夫		『場所』の工夫
引き出したい姿・行動		
『やること』の工夫		『人』の工夫

考えた「仕掛け」を実践してみましょう。その際の気づきや感想、お子さんの変化などを書いておきましょう。



岡山県教育庁生涯学習課